

日本鉄鋼協会記事

編集委員会

第5回編集運営委員会 開催日：11月16日。出席者：田中委員長，ほか 14 名。

1. 和文会誌，欧文会誌，講演大会，出版の各分科会より活動報告がなされた。

2. 昭和 55 年度俵論文賞選考委員会のメンバーが決定された。

第9回和文会誌分科会 開催日：11月2日。出席者：佐野幹事，ほか 15 名。

1. 9 件の論文審査報告がなされ，掲載決定 6 件，その他 3 件であった。

2. 「鉄と鋼」第 66 年第 3 号（3 月号）に論文 12 件，技術報告 1 件，随想 2 件，掲載決定した。

第9回欧文会誌分科会 開催日：11月6日。出席者：中村幹事，ほか 8 名。

1. 18 件の論文について審査報告がなされ，掲載可 7 件，照会后掲載可 4 件，修正依頼 6 件，一旦返却 1 件であった。

2. 「鉄と鋼」以外の国内雑誌より，2 件の Report と 1 件の研究論文を勧誘することとなった。

第6回講演大会分科会 開催日：11月9日。出席者：郡司主査，ほか 16 名。

1. 第 98 回講演大会の反省を行い，第 101 回大会の討論会テーマ及び座長を決定した。

2. 第 100 回講演大会記念行事の編集小委員会，企画小委員会を設けた。

共同研究会

製鉄部会

第55回部会 開催日：10月25，26日。出席者：樋口部会長代行，ほか，139 名。

今回は協会主催で神田学士会館で開催された。共通議題は「製鉄分野における研究成果の適用について」であり，各社よりの報告の後，パネルディスカッションが行われた。

特別講演として，「原子力製鉄について」（原鉄組合），「オールコークス操業」（住金）が行われた。また，自由議題 5 件，改修報告 4 件があった。

製鋼部会

第74回部会 開催日：11月1，2日。出席者：山本部会長，ほか 119 名。

新日鉄・広畑で開催した第 74 回部会では，特別講演の他，自由議題，重点テーマの研究発表，討論が行われた。

特別講演題目「最近の製鋼技術について」講師 新日鉄・広畑・山広実習製鋼部長

研究発表

自由議題 発表件数 12 件

重点テーマ 発表件数 8 件

「直送圧延・熱片装入の現状と製鋼での諸対策」

鋼板部会

第49回分塊分科会 開催日：11月8，9日。出席者：梨和主査，ほか 109 名。

1. 場所 住金・鹿島

2. 議事概要

(1) 研究発表

(a) 操業調査表

(b) 作業時間調査表

(c) 共通議題

条：ロール管理について

板：低操業下におけるスラブ分塊について

(d) 自由議題

なお，板部門の共通議題は初めての試みとしてパネルディスカッション方式で行い，熱心な討論が行われた。

(2) 特別講演

「鹿島製鉄所におけるコンピュータシステムについて」

住金・鹿島 鳥越システム部長

条鋼部会

第47回中小形分科会 開催日：11月8，9日。出席者：森脇主査，ほか 106 名。

開催地：東京鉄鋼・小山

1. 工場操業状況報告

2. テーマ研究 A

「組替，型替の方法と合理化」

テーマ研究 B

「エネルギー対策の現状と今後の計画」

3. 自由研究

4. 特別講演

「最近の二次加工の動向」

5. 工場見学

東京鉄鋼・小山

鋼管部会

第33回部会 開催日：10月18，19日。出席者：田中部会長，ほか 153 名。

開催地：第 1 日目 川鉄・千葉

第 2 日目 東芝鋼管・千葉

1. 共通議題

「最近 5 ケ年間の鋼管技術の進歩（後編）」について，アンケートのまとめ発表と質疑応答が行われた。

2. 継目無鋼管分科会報告

分科会の活動概況報告と，成果発表「ローリングスケジュールまとめ」が行われた。

3. 自由議題

次の 3 件の発表が行われた。

- (1) 「テストピース自動測定装置」
- (2) 「電縫管造管ラインにおける連続式溶融亜鉛メッキについて」
- (3) 「スパイラル鋼管溶接部の疲れ強さに関する研究」

4. 特別議題

「石油・天然ガスの掘削と生産について」と題し講演が行われた。

鉄 鋼 分 析 部 会

第 45 回部会 開催日：10月26日。出席者：池野部会長，ほか 71 名。

1. 場所 新日本・室蘭
2. 議事概要
 - (1) 5 分科会，2 小委員会の経過報告
 - (2) 幹事会報告
 - (3) 鉄鋼標準試料委員会報告
 - (4) ISO/TC 102 報告
3. 部会長交替について

今回の部会で，池野部会長に代つて川村和郎氏（新日鉄・生産技研）が新部会長となる旨の紹介があつた。

第 35 回発光分光分析分科会 開催日：10月24日。出席者：井樋田主査，ほか 42 名。

1. 場所 新日鉄・室蘭
2. 議事概要
 - (1) 高合金鋼分析共同実験第二次報告 16 件
 - (2) 自発研究報告 4 件
 - (3) 今後の共同実験について討議した結果，T・Al を対象として PDA 法及び従来法による精度，正確度調査共同実験を行うこととなつた。

第 36 回蛍光 X 線分析分科会 開催日：10月25日。出席者：安田主査，ほか 36 名。

開催地：新日鉄・室蘭

開会にあたり安田新主査の挨拶があつた。

1. JIS 案「鉄鉱石のけい光 X 線分析方法」についての審議
2. ISO 関係について，装置性能テストのための第 1 回共同実験内容の説明があつた。
3. 今後の検討事項
 - (1) 融解法による鉄の dj 補正法の検討
 - (2) 鉄鉱石中の微量成分定量のための粉末ブリケット法の検討
 - (3) 鉄鋼分析の場合のカーバイトフォーマー元素の dj の検討

第 59 回化学分析分科会 開催日：10 月 25 日。出席者：岸高主査，ほか 43 名。

開催地：新日鉄・室蘭

1. JIS 鉄及び鋼の分析法(案)についての報告
2. 高純度鉄中微量元素定量方法
 - (1) 第一次共同実験結果のまとめを直属幹事が報告した。
 - (2) 第二次共同実験要領案審議
 - (3) 極微量硫黄定量法として DEPD 試薬を用いる吸光光度法が報告された。

3. 銑鉄中窒素定量法についての審議

4. 希土類定量共同実験結果

第 58 回鋼中非金属介在物分析分科会

開催日：10月25日。出席者：成田主査，ほか 20 名。

1. 場所 新日鉄・室蘭

2. 議事概要

(1) 鋼中炭化物抽出用標準試料

430 系ステンレス鋼，低合金鋼，Fe-Cr-C 系試料に関しての試験結果の報告が 6 件行われた。炭化物抽出用標準試料に関する共同実験は 430 系を除いて全て終了した。

(2) 鋼中硫化物の抽出分離定量法

鋼中硫化物の抽出分離定量および S 定量法に関して 4 件の報告が行われた。共同実験の方法および順序の詳細ならびに共同実験の進め方を種々討議し，試料の組成および次回共同実験の概略を決定した。

熱 経 済 技 術 部 会

第 65 回部会 開催日：11月8，9 日。出席者：片田部会長，ほか 113 名。

1. 統一議題

「熱測定技術における実態と問題点（熱測定管理，教育訓練，作業管理等について）」というテーマで，アンケートのまとめ発表と質疑応答が行われた。

2. エネルギバランスまとめ報告

昭和 53 年度のエネルギバランスについて一貫・非一貫工場別にまとめの報告が行われた。

3. 研究課題

「住金・和歌山における熱技術活動」と題し，発表と質疑応答が行われた。

4. 自由討論

計 10 件の発表と討論が，各社の事前質問に対する回答の形で行われた。

5. 自由議題

計 15 件の各社最近の成果発表と討論が行われた。

6. 工場見学は住金・和歌山の熱試験設備と熱延工場を中心に行つた。

運 輸 部 会

第 4 回部会 開催日：11月8，9 日。出席者：林部会長，ほか 108 名。

1. 共通議題

「輸出船積みの実態と合理化について」というテーマで，過去 1 年間，輸出船積み検討小委員会を設置して検討を行つた結果の報告及び討論が行われた。

2. 自由議題

共通議題関連及び運輸全般対象の改善事例について計 12 件の発表が行われた。

3. グループ討議

上記の共通議題および自由議題について，共通議題関連と運輸全般の改善事例関連の二班に分かれグループ討議が行われた。

品質管理部会

第41回部会 開催日：11月8, 9日。出席者：西澤部会長、ほか86名。

トピー工業・豊橋で開催された。共通議題Ⅰは「省エネルギー操業下における品質保証・品質監査について」、共通Ⅱ「現状品質管理状況のチェックと改善」をとりあげ討論、報告が行われた。またアンケート「品質管理に関する会議」実態調査報告が行われた。

機械試験小委員会、非破壊検査小委員会の活動報告も行われた。

標準化委員会

ISO鉄鋼部会

第7回 EC 分科会 開催日：10月16日。出席者：山南主査、ほか8名。

1. TC17 事務局支援体制について
2. DIS 404.2 (鋼の一般受渡し技術要件) の各国コメントの検討
3. ISO/TC17 事務局連絡事項の報告
4. 国際規格案と JIS との整合性

第8回 EC 分科会 開催日：11月1日。出席者：山南主査、ほか12名。

1. INSM (国際ナンバリングシステム) については SC2 分科会に WG を設置して検討を進めることにした。なお、対象には鋼管を含めるが、鋳鋼品についてはある段階に進んだ時点で鋳鍛鋼会に連絡、協力を求める。また、非鉄金属業界との調整は、必要が生じた場合に行う。ISO/TC17 事務局では松村氏が担当する。

2. SC1 幹事団については、日本が引受けられるかどうかの可能性について検討した。幹事国立候補締切りは11月末となつていますが、SC1 分科会では11月15日の会議の議題となつている。Petrie の話だとデンマークが ECSC, WG20 の分析の世話をしているが、SC1 の幹事国は引受けないといつている。ISO/TC17 事務局としては各国が NO の場合、日本の幹事国引受けを要請したい。なお、55年2月頃までには幹事国を決めたい。

3. TC17 総会を日本で開催する場合の予算及び TC17 各 SC の日本開催のスケジュールについて検討した。

(1) 日本開催を要望されている TC17/SC もあり、これらを勧案して計画立案の必要がある。長期予想として次表が考えられる。

80年	81年	82年	83年
SC1	SC8 SC2	TC17 SC3 SC12	SC4 TC164/SC1 TC164/SC3

(2) 日本開催の場合の費用は、国内委員会が持つのか、ISO/TC17 事務局から出すのか、問題となつたが、一般的には TC17 総会及び EC 会議は ISO/TC17 事務局で、それ以外は国内委員会が負担するのが妥当と考えられた。いずれにしても全額協会負担はできないので、寄付をお願いすることになる。

4. SC19 分科会を設置することにし、構成について

検討した。

SC9 分科会 開催日：11月5日。出席者：有賀主査、ほか8名。

昭和54年10月2～4日フィラデルフィアにて開催された。SC9 国際会議への出席者を代表して田辺氏(東洋鋼鉄)より報告書にもとづき報告が行われた。

第10回 TC164 分科会 開催日：10月29日。出席者：川田主査、ほか16名。

1. 第3回 TC164/SC1 会議報告

自動引張試験について日本から14枚のスライドを用いて講演を行い、その後質疑応答があつた。自動化については各国とも10年以上遅れており、日本提案は同調される気運にあることが伺えるとの報告があつた。

2. 第3回 TC164/SC3 会議報告

硬さ試験は、試験法、試験機、基準片、硬さ換算表の4つの規格で構成され、プログラムが決まつた。HB試験法は終了、試験機の検査はくぼみ計測製造について日本提案が否決され、再現性提案も受入れられなかつた。ブリネル硬さ基準片については大部分が次回持越しとなつた。

3. 今後の進め方

(1) SC1 関係 28E については内容及び様式ともかなり変更されているので、試験機工業会メンバーで洗い直すことにした。

(2) SC3 関係 HB 及び HV に関しては既に日本コメントを提出済みであるが、再度見直すことにした。

データ・シート部会

第17回高温引張データ・シート分科会幹事会

開催日：10月16日。出席者：脇本主査直属幹事、ほか10名。

解析用データ整理作業を行つた。

第8回破壊靱性データ・シート分科会

開催日：10月15日。出席者：町田副主査、ほか9名。

鋼種の Grouping と Code 番号の検討及び電算機を用いたデータ処理方法の検討が行われた。

第71回鋼管分科会 開催日：10月31日。出席者：丸岡主査、ほか16名。

1. 機械構造用諸管3規格(STKM, STKA, SUSTK)の第3次案の検討を行つた。

2. 構造用炭素鋼鋼管2規格(STK, STKR) 日本鋼構造協会からの意見について検討を行つた。

第2回硬さ試験方法 JIS 原案作成分科会

開催日：10月29日。出席者：川田主査、ほか21名。

ピッカース硬さ試験方法改正案の審議

適用範囲、用語の意味、試料、試験機、試験法、くぼみの測定及び硬さの算出、硬さの表示について検討し第一読会を終了した。なお、特に試験荷重の下限を1kgfとするかどうかは、微小硬さ試験との関係から最後に決めることにした。

ク リ ー プ 委 員 会

第 7 回高温クリープ・疲労試験分科会 開催日: 11 月 1 日. 出席者: 大谷主査, ほか 24 名.

高温クリープ, 疲労試験分科会共同研究「ひずみ範囲分割法にもとづく高温低サイクル疲労寿命の評価」に関する o-test 試験結果について, 次のごとく各試験機関から報告があり, 質疑応答が行われた.

- (1) 東芝・タービン工場 (700°C)
- (2) 千代田化工建設 (/)
- (3) 神鋼・中研 (/)
- (4) 日新・周南研究部 (/)
- (5) 川鉄・技研 (600°C)
- (6) 川重・技研 (/)
- (7) 石播・技研 (/)
- (8) 京大工学部 (/)
- (9) パプコック日立・呉研究所 (700°C)
- (10) 三菱重工・高砂研究所 (/)
- (11) 電力中央研究所 (/)

その他, 京大藤野幹事より「ひずみ範囲分割法の他の方法の可能性の検討」についてその結果が報告された.

特 定 基 礎 研 究 会

原料炭の基礎物性部会

第 5 回部会 開催日: 9 月 13 日. 出席者: 木村部会長, ほか 25 名.

現在までの研究結果が, 大内, 竹下, 大谷, 館, 各委員より説明があり, その後今後の活動方針を検討した. その結果来年 2 月をめどに, 中間報告書の作成並びに公開講演会を行うこととなつた. また本部会は来年度以降も, 継続させたいとの希望が, 委員, 幹事より出され, 鉄鋼協会に部会継続を打診することとなつた.

鉄鋼二次製品生産設備調査委員会

昭和 53 年度委員会 開催日: 10 月 9 日. 出席者: 松下委員長, ほか 34 名.

調査委員会委員 17 名. 諸団体事務局代表 11 名および幹事 7 名が出席して次のように鉄鋼二次製品生産設備

備調査完了報告会が行われた.

1. 開会の辞
幹事長 亜鉛鉄板会専務理事 萩原 俊男氏
2. 委員長挨拶
日本鉄鋼協会副会長
東京大学教授 松下 幸雄氏
3. 通商産業省挨拶
基礎産業局製鉄課長 林 俊太氏
4. 日本鉄鋼協会挨拶
専務理事 田畑新太郎氏
5. 概要報告 配付の報告書を基に製鉄課紙谷事務官より今回の調査結果の動向につき全般にわたり説明がなされた.

鉄鋼基礎共同研究会

高 炉 内 反 応 部 会

第 9 回部会 開催日: 10 月 23 日. 出席者: 大森部会長, ほか 30 名.

当日は明 10 月 24 日の中間報告会の発表打合せを中心に討議が行われた. 翌 10 月 24 日は神田学士会館にて, 中間報告会を行い, 13 件の報告を行つた. 参加人数は 100 人で盛会であつた. なお中間報告書「高炉内現象とその解析」を発行し, 好評を得ている.

高 温 変 形 部 会

第 11 回部会 開催日: 9 月 27 日. 出席者: 田村部会長, ほか 28 名.

1. 講演
主題「制御圧延技術の展開」
(1) γ 域における変形と再結晶挙動
(2) 制御圧延に関する 2, 3 の課題
(3) 分離型変態強化と非脆化型析出強化について
(4) 低炭素鋼の 2 相域圧延

2. 高温変形シンポジウム

来年開催予定である第 2 回高温変形シンポジウムは「制御圧延技術の基礎とその展開」を主題に講演題目, 講師の詳細項目について検討中である.